

ステレオレコードプレーヤー

取扱説明書

準備する

レコードを聞く

レコードを録音する

お手入れと部品の交換

その他

お買い上げいただきありがとうございます。

**警告**

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

2~4ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 本機の電源プラグをコンセントから抜く。
- ② 本機とパソコンを付属のUSB接続ケーブルで接続している場合は、USB接続ケーブルを抜く。
- ③ パソコンの電源を切る。
- ④ お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)に修理を依頼する。

ACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物が入らないようにする

機器を水滴のかかる場所に置かないこと。及び水のいった物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、USB接続ケーブルをパソコンと本機から抜いて、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にご相談ください。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機やACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にご相談ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体、ACアダプターや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

ACアダプターのコードを傷つけない

ACアダプターのコードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- ACアダプターのコードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、ACアダプターを抜く。
- ACアダプターを抜くときは、必ずACアダプターの筐体を持って抜く。

→万一、ACアダプターのコードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺**の家財に損害**を与えたりすることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ダストカバーと本体の隙間や、ダストカバーを外して使用しているときに、ヒンジ部などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようご注意ください。



指のケガに注意

可燃ガスエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

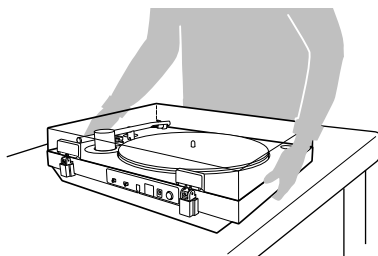


禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

持ち運ぶ際は本体の下を持つ

本体の下をしっかりと持ってください。誤った方法で運搬すると、本機が落下し、けがや故障の原因となることがあります。



ぬれた手でACアダプターや電源プラグにさわらない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

大音量で長時間つづけて聞かない



禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所の強度も十分に確認してください。

コード類は正しく配置する



禁止

ACアダプターのコードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。

移動させるとき、長期間使わないときは、ACアダプターを抜く



プラグをコンセントから抜く

長期間使用しないときは安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、ACアダプターを抜く



プラグをコンセントから抜く

ACアダプターを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

ステレオレコードプレーヤーについて
機銘板は、本機の底面に表示してあります。

ACアダプターについて

ACアダプターの機種名は、ACアダプターの底面に表示してあります。

ソフトウェアバージョンの確認方法

パソコン上で本機のファームウェアのバージョンを確認することができます。ソフトウェアの更新がある場合に提供される更新用ソフトウェアをソニーサポートホームページでダウンロードして、ファームウェアを更新します。

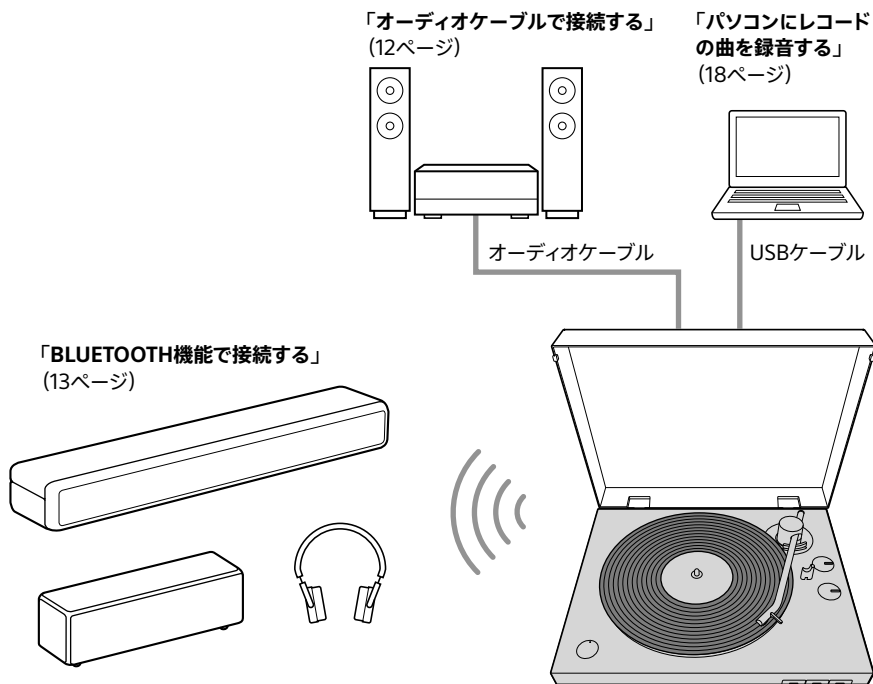
本機の特長

本機はレコードの曲をアナログ再生するステレオレコードプレーヤーです。
はじめてお使いになるときは、組み立ててお使いください。

本機はスピーカーを内蔵していません。

レコードの音声を聞くには、オーディオケーブルでオーディオ機器に接続する、またはBLUETOOTH®機能でワイヤレススピーカーやワイヤレスヘッドホンなどのBLUETOOTHオーディオ再生機器に接続してください。

パソコンとUSB接続してパソコン上で録音用ソフトウェアを使用すると、本機で再生したレコードの曲をパソコンに録音することができます。



ご注意

- 必ず音量調節機能があるBLUETOOTHオーディオ再生機器と接続してお使いください。音量が調節できない機器と接続すると、非常に大きな音量で再生されることがあります。
- テレビやスマートフォン、パソコンなどの機器は、本機とBLUETOOTH接続して本機から送信されるストリーミングを受信することはできません。
- 本機はDJ(ディスクジョッキー)用のアナログレコードプレーヤーではありません。ターンテーブルの回転を止める、逆回転させるなどの動作をすると故障の原因となります。

目次

本機の特長.....	5
各部の名前と働き.....	7

準備する

付属品を確かめる.....	9
組み立てる.....	10
接続する.....	12

レコードを聞く

レコードを再生する.....	15
----------------	----

レコードを録音する

パソコンにレコードの曲を録音する...	18
---------------------	----

お手入れと部品の交換

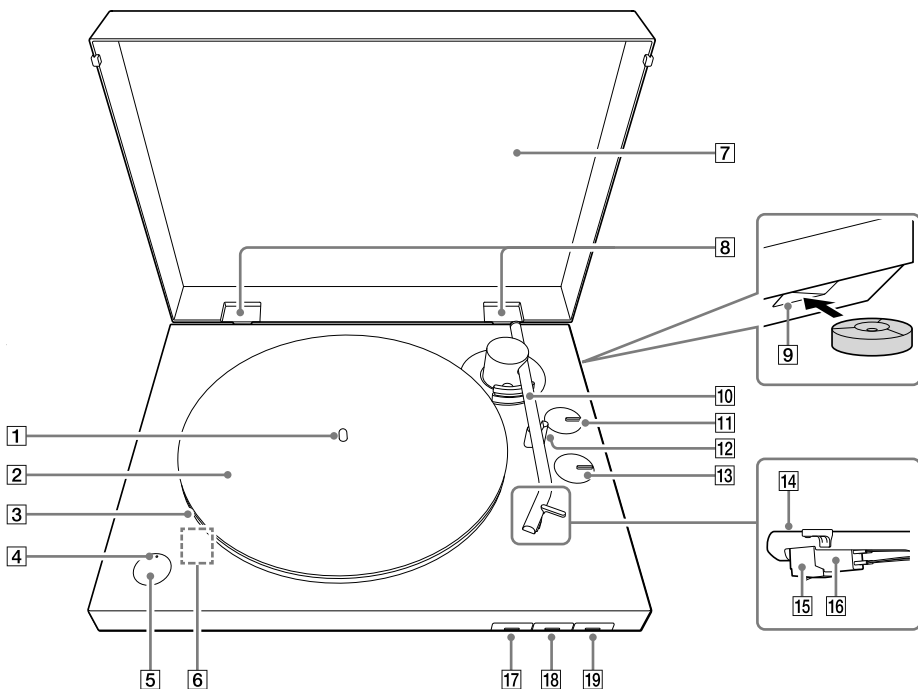
針先のお手入れ.....	20
針先を交換する.....	20
ドライブベルトを交換する.....	21
カバーと本体のお手入れ.....	21

その他

使用上のご注意.....	22
困ったときは.....	23
保証書とアフターサービス.....	24
主な仕様.....	25
索引.....	26

各部の名前と働き

前面／側面



1 スピンドル(10ページ)

2 ターンテーブル用マット(9,11ページ)

3 ターンテーブル(9,10ページ)

本機を組み立てるときに、スピンドルに差し込んで取り付けます。裏側にはドライブベルトが巻きつけてあります。

4 BLUETOOTHランプ

BLUETOOTH対応再生機器とBLUETOOTH接続中は青色に点灯、PAIRINGモード時は青色で速く点滅、BLUETOOTH機能が無効のときは消灯します。無効の状態ではBLUETOOTHボタン/PAIRINGボタンを押して、周囲にBLUETOOTH機能が有効な機器登録(ペアリング)済みの機器がない場合は、オレンジ色に点灯し待ち受け状態になります。

5 BLUETOOTHボタン/PAIRINGボタン(13ページ)

BLUETOOTH機能を有効/無効にします。約2秒間押し続けて離すと、本機がペアリングモードになります。

6 マイクロUSB端子

ターンテーブルを取り外した内側にあります。本機のファームウェアの更新があった際に(4ページ)、別売りのマイクロUSBケーブルを使ってパソコンと接続して、更新します。

7 ダストカバー(9,11ページ)

8 ダストカバー用ヒンジ(9,11ページ)

9 45回転アダプター収納ホール(9,15ページ)

45回転アダプターを使用していないときに収納しておくことができます。

10 トーンアーム(15ページ)

11 SIZEノブ(15ページ)

再生するレコードのサイズに合わせて切り替えます。

12 アームレスト(16ページ)

レコードを再生しないときに、トーンアームを乗せておきます。

ご注意

アームレストの下に穴が開いています。本機を運ぶ際に、ひもを通してトーンアームとアームレストを固定するために使用します。

13 SPEEDノブ(15ページ)

再生するレコードに合わせて回転数を切り替えます。

14 ヘッドシェル

15 針先(20ページ)

お買い上げ時には、針先保護のカバーが取り付けられています。本機を組み立てるときや、長期間ご使用にならないときは、カバーを取り付けてください。

ご注意

針先は精密な部品です。破損させないように丁寧に扱ってください。

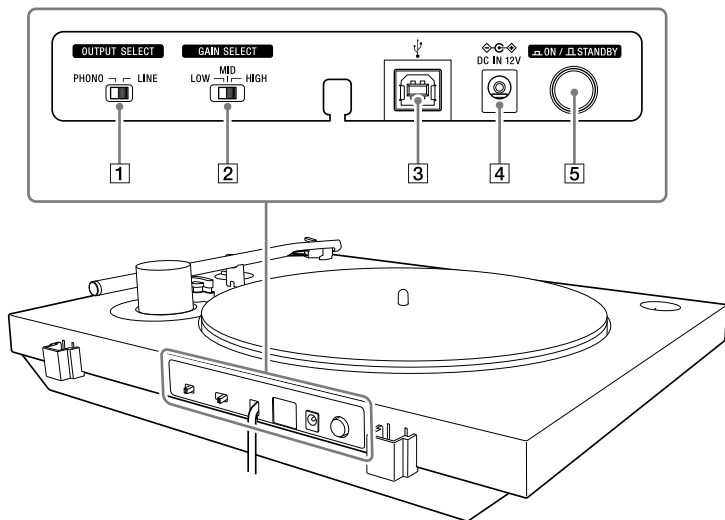
16 カートリッジボディ(20ページ)

17 STARTボタン(16ページ)

18 STOPボタン(16ページ)

19 UP/DOWNボタン(16ページ)

後面



1 OUTPUT SELECTスイッチ(12ページ)

ステレオシステム(アンプ)と接続するとき、お使いの機器に合わせて出力方式を切り替えます。

2 GAIN SELECTスイッチ

レコードに記録された音量の差を再生時に調整します。小さい音量で記録されたレコードの場合、HIGH側にセットすると適度な音量で再生されます。大きな音量で記録されたレコードの場合、HIGH側にセットした状態で再生すると音がひずむことがあります。レコードに合わせて設定を変更してください。

音量調整はOUTPUT SELECTスイッチがLINE側にセットされている際のオーディオ出力や、BLUETOOTH接続での再生音量、パソコンでの録音音量に有効です。OUTPUT SELECTスイッチがPHONO側にセットされている際のオーディオ出力には無効です。

3 USB端子(Type B)(18ページ)

パソコンで録音するときに、付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続します。

4 DC IN 12V端子

5 電源 ON / STANDBYボタン(18ページ)

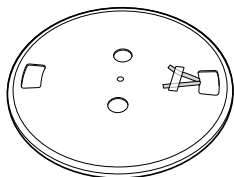
本機の電源をオン/オフします。STARTボタンを押しても再生が始まらない場合は、電源が ONになっているか確認してください。

準備する

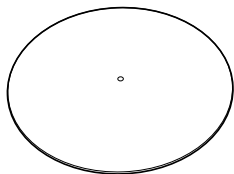
付属品を確かめる

次の付属品がそろっているかどうかを確認してください。もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にご連絡ください。

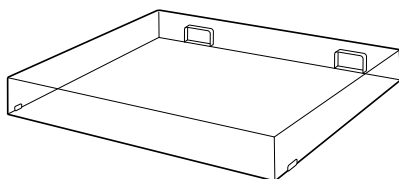
- ターンテーブル(ドライブベルト付き) (1)



- ターンテーブル用マット (1)



- ダストカバー (1)



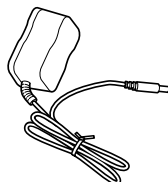
- 45回転アダプター (1)*
7インチ (17 cm) レコード (EP盤) を再生するとき、スピンドルの上に置きます。
使用しない際は45回転アダプター収納ホールに収納してください。



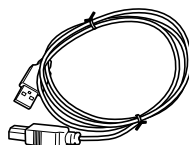
- ダストカバー用ヒンジ (2)*



- ACアダプター (1)



- USBケーブル (録音用) (1)



- 取扱説明書 (本書)
- 保証書
- 「製品登録」のおすすめと「ご愛用者アンケート」のお願い

* 45回転アダプター、ダストカバー用ヒンジは本体梱包用クッションの側面に付いています。

ご注意

修理の際などの再輸送のために、梱包用クッションは保管しておいてください。

組み立てる

ご注意

- 本機のお買い上げ時には、針先に針先保護のカバーが取り付けられています。カバーが取り付けられたままの状態、本機を組み立ててください。
- 組み立てが完了するまで、ACアダプターを本機と電源コンセントに接続しないでください。
- 針先は精密部品です。指で触ったり、ターンテーブルにぶついたりすると破損の原因になるので、触れないように取り扱ってください。
- 組み立て後に本機を移動させるときは、
 - 針先カバーを取り付け、
 - ターンテーブルを取り外し、
 - アームレストの穴にひもを通して、トーンアームとアームレストを固定してください。

設置場所について

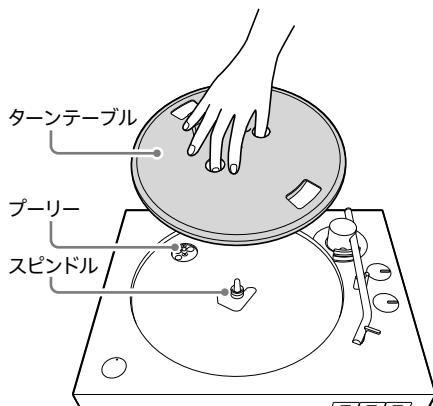
レコードプレーヤーは振動に影響を受けやすいため、安定した水平な場所に設置してください。また、以下のような場所には設置しないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所
- じゅうたんや布団の上
- 湿気の多い所、風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 直射日光が当たる所
- 極端に寒い所
- 電波や電磁波ノイズを出すおそれのある電子機器の近く

ターンテーブルを取り付ける

1 ターンテーブルをスピンドルに差し込む。

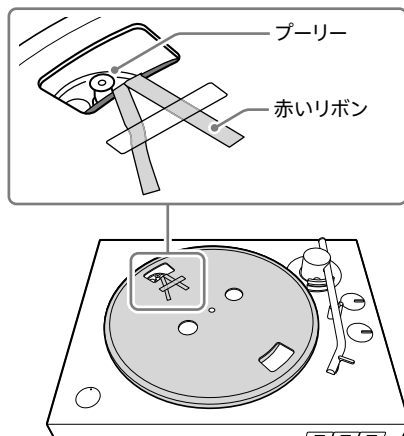
ターンテーブルを水平にした状態で、スピンドルに差し込んでください。



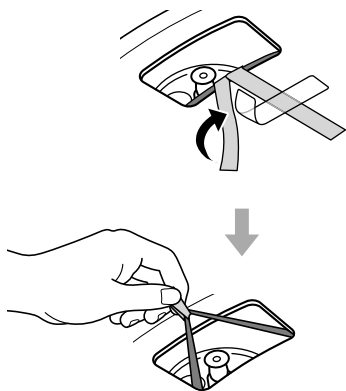
ご注意

ターンテーブルを落とさないように、しっかりと持つてください。けがをしたり、本機の損傷の原因になります。

2 ターンテーブルを回して、赤いリボンが留められている穴からプーリーが見える位置に合わせる。



- 3** テープをはがして赤いリボンを引っ張りながら、ドライブベルトをプーリーにひっかける。



ご注意

- ドライブベルトをねじらないようにご注意ください。ドライブベルトをねじって取り付けると、スピードが不安定になったり、ターンテーブルが回り始めてから止まったりします。その場合は、再度取り付け直してください。
- ドライブベルトの取り付け時に、無理にドライブベルトを伸ばさないようにしてください。劣化して音程が高すぎたり、不安定になったりする原因になります。
- ドライブベルトの取り付け時に、ドライブベルトがターンテーブルの内円部から外れてしまった場合は、ターンテーブルをいったん取り外して裏返し、ドライブベルトを内円部の外周に巻き直して最初の手順からやり直してください。
- ドライブベルトをプーリーにかけた後は、必ず赤いリボンを外してください。赤いリボンは、作業を補助するためのものです。赤いリボンがなくてもドライブベルトを取り付けることは可能です。ターンテーブル取り付け後に、赤いリボンは必要ありません。

- 4** ターンテーブル用マットをターンテーブルの上に敷く。

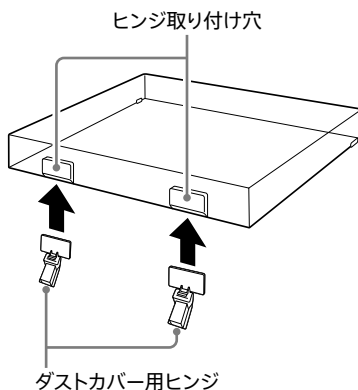
- 5** 次の操作を行って、ターンテーブルとトーンアームの動作機構を初期状態にする。

- トーンアームを固定しているひもを取り外す。
- UP/DOWNボタンを押してトーンアームを上げる。
- ターンテーブルを手で時計回りにゆっくり10回転させる。
- UP/DOWNボタンを押してトーンアームを降ろす。

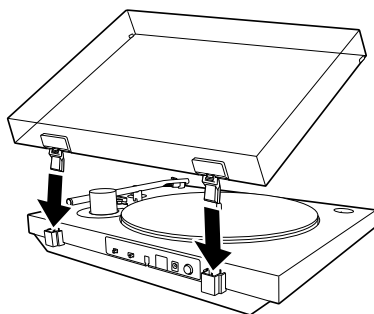
ターンテーブルの回転やトーンアームの動作を安定させることができます。

ダストカバーを取り付ける

- 1** 付属のダストカバー用ヒンジをダストカバーに差し込む。



- 2** ダストカバーを本機に取り付ける。



ちょっと一言

ダストカバーを外すには、ダストカバーを最後まで開いて、ダストカバー後部の側面を両手で持って上へ引き抜いてください。

接続する

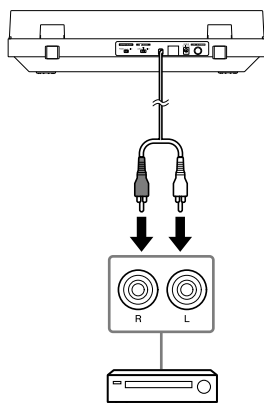
オーディオケーブルで接続する

ご注意

- 必ず、ステレオシステム(アンプ)の電源を切ってから接続してください。
- すべての接続が終わってから、ACアダプターのプラグを電源コンセントに接続してください。

1 本体背面から出ているオーディオケーブルを、ステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子やAUX入力端子またはアナログ入力端子に接続する。

白(L)端子には白プラグを、赤(R)端子には赤プラグを接続します。



ご注意

接続する際はプラグを端子にしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと雑音の原因になります。

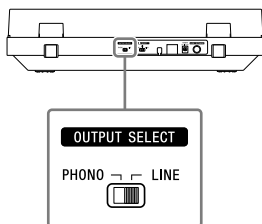
2 接続したステレオシステム(アンプ)の端子に応じて、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチを切り替える。

• ステレオシステム(アンプ)にPHONO入力端子があるとき(PHONO入力端子に接続)

PHONO側にセットします。本機内蔵のフォノイコライザーアンプを通さずに、MMカートリッジからの音声信号がオーディオケーブルから出力されます。ステレオシステム(アンプ)側のフォノイコライザーアンプが使用されます。

• ステレオシステム(アンプ)にPHONO入力端子がないとき(AUX入力、VIDEO入力端子などに接続)

LINE側にセットします。本機内蔵のフォノイコライザーアンプを通した音声信号がオーディオケーブルから出力されます。



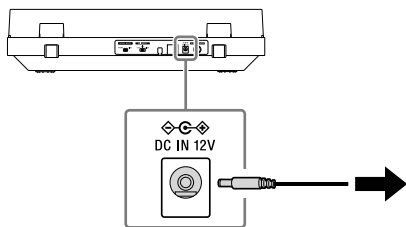
ご注意

- 本機をオーディオケーブルで他の機器と接続せずに、BLUETOOTH接続だけで使用する場合は、オーディオケーブル先端の金属部同士が接触したり、ラックや他の機器の金属部に接触したりしないように設置し、OUTPUT SELECTスイッチをLINE側にセットしてご使用ください。
- オーディオケーブルをPHONO入力端子に接続して、OUTPUT SELECTスイッチをLINE側にセットすると、非常に大きな音が出てアンプやスピーカーを壊してしまう可能性があります。PHONO入力端子に接続する際は、必ずPHONO側にセットしてください。
AUX入力端子、またはそれ以外のアナログ入力端子に接続してOUTPUT SELECTスイッチをPHONO側にセットすると、非常に小さな音しか再生されませんので、LINE側にセットしてください。

ちょっと一言

お買い上げ時には、OUTPUT SELECTスイッチはLINE側にセットされています。

3 ACアダプターを接続する。



ご注意

ノイズの影響を避けるため、レコードプレーヤーはACアダプターの本体 (ACプラグ側) からできるだけ離して設置してください。

BLUETOOTH機能で接続する

本機のBLUETOOTH機能を使って、別売りのBLUETOOTHスピーカー／ヘッドホンなどのBLUETOOTH対応再生機器とワイヤレス接続して、レコード再生を楽しむことができます。レコードを再生しながらBLUETOOTHボタン／PAIRINGボタンを押すと、その振動により針飛びするおそれがあります。レコードを再生する前に、BLUETOOTH接続することをおすすめします。

ご注意

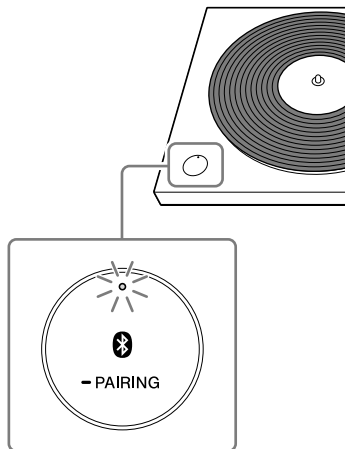
音量を調整できないヘッドホンには接続しないでください。非常に大きな音量で再生されることがあります。

本機と機器登録 (ペアリング) する

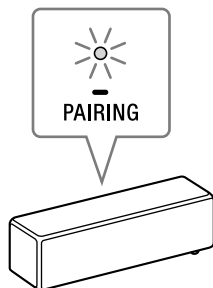
本機を初めてBLUETOOTH対応再生機器に接続する際は、その機器とペアリングする必要があります。

ペアリングした機器の情報は、本機に最大8台まで登録されるため、次回の接続からはペアリングする必要はありません。

- 1 接続したいBLUETOOTH対応再生機器を、できるだけ本機の近くに置く。
- 2 本機のBLUETOOTHボタン／PAIRINGボタンを約2秒間押し続けてから離す。
BLUETOOTHランプが青色に速く点滅します。



3 接続するBLUETOOTH対応再生機器をペアリングモードにする。



上記のイラストは接続する機器の一例です。接続する機器をペアリングモードにする操作方は、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。ペアリングが完了すると、BLUETOOTHランプが青色の点滅から点灯に変わります。

ご注意

本機をオーディオケーブルで他の機器と接続せずに、BLUETOOTH接続だけで使用する場合は、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチをLINE側にセットしてご使用ください。

ちょっと一言

- 一度ペアリングすると、BLUETOOTHボタン／
● PAIRINGボタンを短く押しして本機のBLUETOOTH機能を有効にするだけで、ペアリング済みの機器に接続することができます。また、BLUETOOTHランプがオレンジ色に点灯時(待ち受け状態)に、本体前面のSTARTボタンを押すと、ペアリング済みの機器と接続しレコードを再生することができます。
- BLUETOOTH接続を解除するには、BLUETOOTHボタン／
● PAIRINGボタンを押してください。BLUETOOTHランプが消灯します。
- 本機には、最大で8台までのペアリングした機器の情報を登録することができます。登録した機器の情報は、BLUETOOTHボタン／
● PAIRINGボタンを約10秒間押し続けてから離すとすべて消去することができます。

機器登録(ペアリング)ができないときは

- ペアリングしたいBLUETOOTH対応再生機器以外でBLUETOOTH機能が有効になっている機器が周囲にある場合は、それらの機器のBLUETOOTH機能を無効にしてから、再度ペアリングを行ってください。
- 本機のペアリング操作により、ペアリングしたくない機器の電源がオンになり、自動的にペアリングしてしまう場合があります。その場合は、BLUETOOTH接続により電源がオンにならないように機器の設定を変更し、機器の電源をオフにしてから、再度目的の機器とペアリングしてください。
- スマートフォンやテレビ、パソコンとはペアリングできません。本機はBLUETOOTH機能を使って、BLUETOOTH対応再生機器にデータを送ることはできますが、スマートフォンやテレビ、パソコンからのデータを受信することができないため、ペアリングすることはできません。

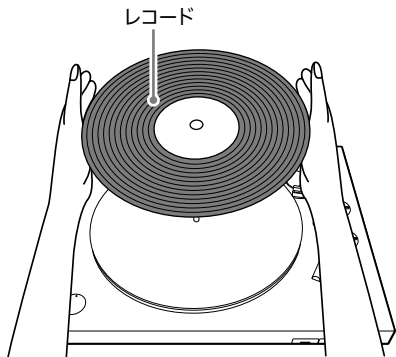
レコードを聞く

レコードを再生する

ご注意

- ステレオシステム(アンプ)の音量は、レコードを再生する前に下げておいてください。トーンアームが降り、針先がレコードに触れたときに大きな音(ボツ音)がする場合があります。ステレオシステム(アンプ)やスピーカーを損傷する原因となります。針先が降りてから、音量を調節してください。
- 新しいレコードでも、再生する際にはパチパチというノイズが発生することがあります。これはレコードの特性上発生するノイズですので、ご了承ください。また、レコードを取り出した際に付いたホコリや塵がノイズの原因にもなりますので、レコードの保管方法についてもご注意ください。

1 ターンテーブルにレコードをのせる。



ご注意

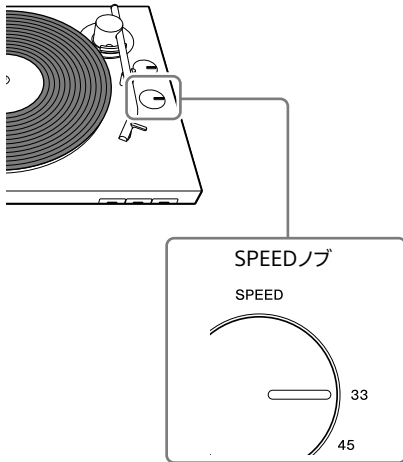
ターンテーブルには、一度に複数のレコードを置かないでください。

7インチ(17 cm)レコード(EP盤)を再生するには

7インチ(17 cm)レコード(EP盤)を再生する場合は、付属の45回転アダプターをスピンドルの上に置いてください。

アダプターを使い終わったら、45回転アダプター収納ホールに収納してください。

2 レコード盤に合わせてSPEEDノブの回転速度を選ぶ。

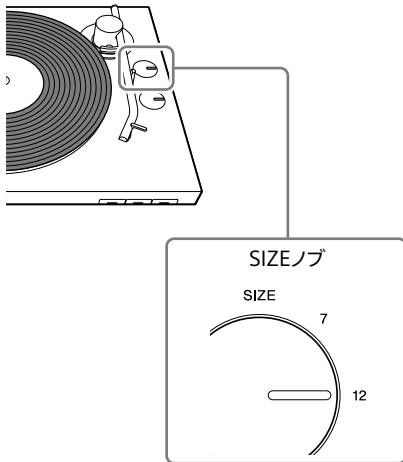


ちょっと一言

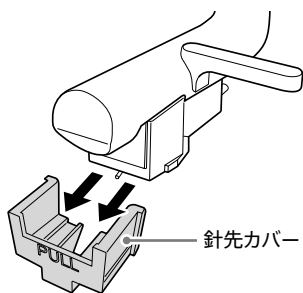
回転数は通常、レコードのジャケットやレーベルに記載してあります。

3 SIZEノブでレコードのサイズ(インチ)を選ぶ。

LP盤では「12」、EP盤では「7」に合わせます。



4 針先カバーを外す。

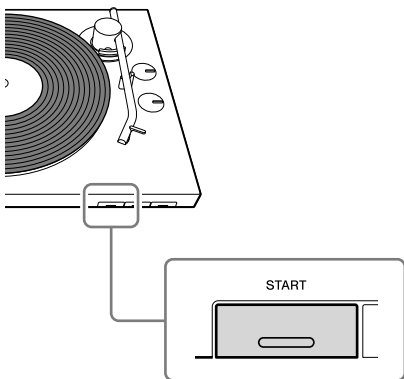


ご注意

針先カバーを外すときは、針先を傷めないようにご注意ください。

5 STARTボタンを押す。

トーンアームは自動的にSIZEノブでセットされたレコードの先頭の位置に降り、再生が始まります。



ご注意

- ダストカバーを閉める場合は、振動で針飛びが起こらないようにゆっくりと閉めてください。
- 再生中は、トーンアームや回転しているレコードに触れないでください。
- 再生中は、本体背面のスイッチを操作しないでください。

6 ステレオシステム(アンプ)で音量を調整する。

再生を途中で停止するには

STOPボタンを押します。トーンアームはアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

再生を一時停止するには

UP/DOWNボタンを押します。トーンアームはレコード盤より上がります。ターンテーブルは回転したままです。

再生が終了したら

トーンアームは自動的にアームレストに戻り、ターンテーブルは止まります。

途中から再生を開始するには

- 1 ステップ4の後、UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを上げる。

演奏を始めたい位置に、トーンアームを手で持っていく。

- 2 UP/DOWNボタンを押して、トーンアームを降ろす。

再生が始まります。

BLUETOOTH接続で再生する

本機と初めてBLUETOOTH接続するBLUETOOTH対応再生機器の場合、事前に機器登録(ペアリング)する必要があります。(13ページ)

- 1 再生機器の電源を入れて、BLUETOOTH接続でのデータ受信を可能な状態にしてから、本機のBLUETOOTHボタン/ PAIRINGボタンを押してBLUETOOTH機能を有効にする。

BLUETOOTH接続に成功すると、本機のBLUETOOTHランプが青色に点灯します。

- 2 「レコードを再生する」の手順1～5を行って、レコードを再生する。

ちょっと一言

BLUETOOTH接続している再生機器のBLUETOOTH機能を無効にすると、本機のBLUETOOTHランプがオレンジ色に点灯し、待ち受け状態になります。待ち受け状態で、再び再生機器のBLUETOOTH機能を有効にして本機で再生すると、自動的に再生機器と接続されます。

再生する機器を切り替えるには

ペアリング済みの他のBLUETOOTH対応再生機器に切り替える場合は、再生中の機器の電源を切った後、切り替えたい機器のBLUETOOTH機能を有効にしてください。

ペアリングしていない新しい機器に切り替える場合は、再生中の機器の電源を切った後に「本機と機器登録(ペアリング)する」の手順を行って、ペアリングを完了してください。

レコードを録音する

パソコンにレコードの曲を録音する

付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続して、レコードの曲をパソコンに録音することができます。

ご注意

- 録音するには録音用ソフトウェアをパソコンにインストールする必要があります。インストールしないと、本機をパソコンに接続しても録音できません。別途、音楽録音用ソフトウェアをご準備ください。フリーソフト (Audacity®) を使用することもできます。下記のアドレスからダウンロードしてください。
<http://www.audacityteam.org/>
このソフトウェアは、弊社サポート対象外です。
- 本機のUSB出力は、録音専用です。レコードを再生する目的には使用できません。

本機に接続できるパソコン

Windows

OS:

Windows 7 (32/64 bit)

Windows 8.1 (32/64 bit)

Windows 10 (32/64 bit)

(最新のサービスパックを適用していること)

Mac

OS:

OS X Mavericks (10.9)

OS X Yosemite (10.10)

OS X El Capitan (10.11)

macOS Sierra (10.12)

macOS High Sierra (10.13)

macOS Mojave (10.14)

macOS Catalina (10.15)

上記以外のOSは動作保証いたしません。

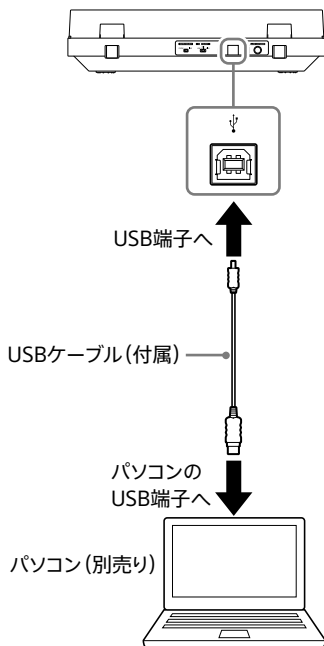
WindowsとMacの標準ドライバーで動作します。専用ドライバーをインストールする必要はありません。

ご注意

- ここに記載している動作環境において、すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- 自作PCおよびOSの個人でのアップグレード、マルチブート環境での動作保証はいたしません。
- すべてのパソコンに対して、システムサスペンド、スリープ(スタンバイ状態)などの動作を保証するものではありません。
- お使いのパソコンに搭載されたOSのサポートが終了している場合は、そのOSでの動作保証はいたしません。

パソコンと接続する

1 本機とパソコンをつなぐ。



2 本体背面の電源 \square ON/ \square STANDBYボタンを押して、本機の電源を入れる。

ご注意

- USBハブ、またはUSB延長ケーブルを使わないでください。必ず付属のUSB接続ケーブルでパソコンと本機を直接接続してください。
- USBコネクタはまっすぐ奥まで差し込んで接続してください。斜めに差し込むと故障の原因になることがあります。
- 本機とパソコンを接続して録音するとき以外は、USBケーブルをはずしておくことをおすすめします。USBケーブルをつないだまま、他のオーディオ機器を接続すると雑音が発生することがあります。
- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して録音する場合は、本体背面のOUTPUT SELECTスイッチの位置に関わらず、本機内蔵のフォノイコライザーアンプによって調整された音声が入力のUSBポートへ入力されます。

パソコンを設定する

レコードの曲を録音するには、事前にパソコン上で再生デバイスと録音デバイスの設定をする必要があります。設定する際は、本機とパソコンをUSBケーブルで接続し、本機の電源が入っていることを確認してください。

Windowsをお使いの場合

下記の手順はOSがWindows 10の場合の例です。

- 1 [スタート]をクリックし、表示されたアプリの一覧の「W」欄から[Windowsシステムツール]を選択する。
- 2 表示された一覧から[コントロールパネル]を選択する。
- 3 コントロールパネルの一覧から[サウンド]を選択する。
- 4 [再生]タブを選択する。
- 5 パソコンのスピーカーを選択して[規定値に設定]を選択する。
お使いのパソコンによって再生デバイスが異なります。詳しくはパソコンの取扱説明書やヘルプをご覧ください。

ご注意

「USB Audio CODEC」とは、本機のことです。「Playback」で「USB Audio CODEC」を選ぶと、音声を再生することができません。

- 6 [録音]タブを選択して、[USB Audio CODEC]が[規定のデバイス]になっているか確認する。

パソコンに接続した本機の電源が入っていない場合、[USB Audio CODEC]は表示されません。

- 7 [OK]を選択する。

Macをお使いの場合

- 1 メニューバーのAppleメニューから「システム環境設定」を選択する。
- 2 「サウンド」を選択する。
- 3 「出力」タブをクリックし、「サウンドを出力する装置を選択」で「コンピューターの出力」を選択する。

ご注意

「USB Audio CODEC」とは、本機のことです。この設定で「USB Audio CODEC」を選ぶと、音声を再生することができません。

- 4 「入力」タブをクリックし、「サウンドを入力する装置を選択」で「USB Audio CODEC」を選択する。

録音中の音を聞くには

録音中の音声が出力されず、録音済みの音声だけが出力される場合は、お使いの録音用ソフトウェアで、入力をそのまま出力する設定 (Software playthrough of input) にしてください。
録音用ソフトウェアによって、設定の有無と設定方法は異なります。

お手入れと部品の交換

針先のお手入れ

針先は、非常に精密な部品です。破損させないように丁寧に扱ってください。

針先のお手入れには、市販のクリーナーなどをご利用ください。

針先を交換する

針先は、ご使用になる条件によって摩耗、破損したり、クリーナーで汚れが取りきれなくなる場合があります。その際は、針先の交換を行ってください。

下記の修理相談窓口に「PS-LX310BTの交換用針先」について、お問い合わせください。

- フリーダイヤル : 0120-222-330
- 携帯電話・PHS・一部のIP電話 : 050-3754-9599

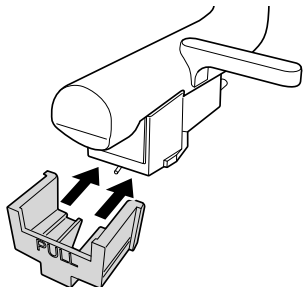
ご注意

- 他社製の交換用針先は使用できません。
- 針先を交換する際は、必ず針先カバーを取り付けてから行ってください。針先でけがをしたり、針先を損傷したりするおそれがあります。

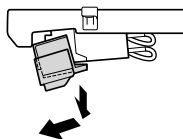
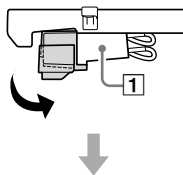
針先の外しかた

- 1 ターンテーブルとステレオシステム(アンプ)の電源を切り、ACアダプターを電源コンセントから外す。

- 2 針先に針先カバーを取り付ける。



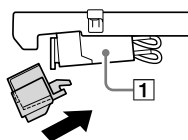
- 3 カートリッジボディー部分(1)を片手で支えながら、針先を矢印の方向に引き下げ、取り外す。



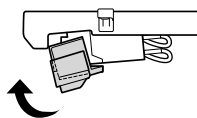
針先の取り付けかた

- 1 針先に針先カバーを取り付ける。

- 2 カートリッジボディー部分(1)を片手で支えながら、交換用の針先のツメをカートリッジボディーの穴に差し込む。



- 3 針先を矢印の方向にカチッというまで押し上げる。



ドライブベルトを交換する

ドライブベルトは、ご使用になる条件によって劣化したり、切れたりする場合があります。その際はドライブベルトの交換を行ってください。

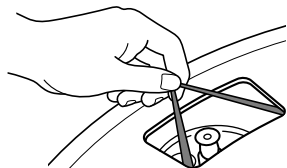
交換用のドライブベルトについては、下記の修理相談窓口にお問い合わせください。

- フリーダイヤル : 0120-222-330
- 携帯電話・PHS・一部のIP電話 : 050-3754-9599

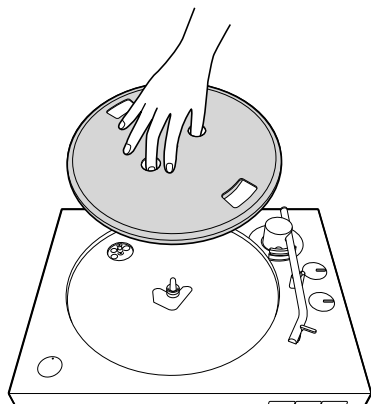
1 ターンテーブルとステレオシステム(アンプ)の電源を切り、ACアダプターを電源コンセントから外す。

2 ターンテーブル用マットを取る。

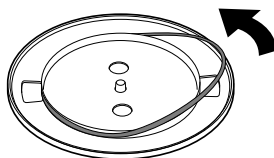
3 プーリーからドライブベルトを外す。



4 ターンテーブルの穴に指を差し込み、ターンテーブルを取り外す。



5 ターンテーブルを裏返して、ドライブベルトを取り外す。



6 新しいドライブベルトをねじれないようにターンテーブルに取り付ける。

以降、本機の組み立て方法について詳しくは、「組み立てる」(10ページ)をご覧ください。

ご注意

交換用のドライブベルトには、目印の赤いリボンが付属していません。

カバーと本体のお手入れ

ダストカバーと本体の汚れは、柔らかい乾いた布でふいてください。

汚れが落ちにくい場合は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

その他

使用上のご注意

録音についてのご注意

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ACアダプターについて

- この製品には付属のACアダプターをご使用ください。付属以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
- 付属のACアダプターは本機専用です。他の機器ではご使用になれません。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。

窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)までお問い合わせください。

2.4 FH1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解/改造すること

商標について

- IBMおよびPC/ATは、米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- Microsoft およびWindows、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- Mac、macOSおよびOS Xは米国および他国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Qualcomm aptXはQualcomm Technologies International, Ltd.の製品です。
- Qualcommは米国および他国々で登録されたQualcomm Incorporatedの商標で、許可を受けて使用しています。aptXは米国および他国々で登録されたQualcomm Technologies International, Ltd.の商標で、許可を受けて使用しています。
- BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

レコード再生

USB端子につないだパソコンやオーディオ機器で再生できない

- 本機で再生するには、ステレオシステム(アンプ)に、本体背面のオーディオケーブルを接続してください。(12ページ)
- USB端子は、録音用ソフトウェアでパソコンに録音するときに使用します。オーディオ機器の接続にはご使用になれません。

トーンアームが飛んだり、滑ったりする

- 本機が水平になっていないので、本機を水平な場所の上に置いてください。
- レコードが汚れているか傷ついているので、市販のレコード専用クリーニングキットでレコードをふくか、または他のレコードと交換してください。

正常な音質が得られない

- 針先が汚れていてノイズが多い場合は、市販のレコード針専用のクリーナー等でお手入れしてください。針先が消耗している場合は、消耗した針先を交換してください。(20ページ)
- 音が不安定にゆれる場合は、ドライブベルトが劣化している可能性があります。ドライブベルトを交換してください。(21ページ)
- レコードにホコリや塵が付いていてノイズが多い場合は、レコード専用クリーナーでレコードをふいてください。
- 針先が摩耗しています。針を交換してください。(20ページ)

低いうなり音や低周波ハウリング*が起る

本機の設置場所がスピーカーに近すぎるので、本機をスピーカーから離してください。

* この現象は「音響フィードバック」と呼ばれています。スピーカーの振動が空気や固体(棚、キャビネット、床等)を通じてプレーヤーに伝わり、針先に拾われ、増幅され、スピーカーから再生された場合に生じます。

雑音が入る

- 本体背面のOUTPUT SELECTスイッチの設定を確認してください。PHONO側に設定した状態で、本機をステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子以外の入力端子を使って接続していると雑音が入ることがあります。背面のOUTPUT SELECTスイッチをLINE側にしてください。また、LINE側に設定しているときは、本機をステレオシステム(アンプ)のPHONO入力端子を使って接続しないでください。
- 本機がパソコンとUSBケーブルで接続されていないか確認してください。USBケーブルをつないだまま、ステレオシステム(アンプ)などと接続すると、雑音が発生することがあります。
- ステレオシステム(アンプ)とパソコンがUSBケーブルやオーディオケーブルで接続されていると、レコード再生時に雑音が発生することがあります。その場合はパソコンとステレオシステム(アンプ)の接続を外してください。

音程が高すぎる/低すぎる

- 回転速度が誤っているので、レコードに記載されている回転速度に合せてください。33-1/3 r/minのレコードではSPEEDノブを「33」に、45 r/minのレコードではSPEEDノブを「45」に設定してください。
- ドライブベルトがねじれていたり、劣化していたりする場合があります。ねじれを取り除いてください。(21ページ)

音程が不安定

針先が摩耗しています。針を交換してください。(20ページ)

ドライブベルトが劣化している/切れている

ドライブベルトを交換してください。(21ページ) ドライブベルトについては、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

ターンテーブルが回転しない

- ACアダプターが壁のコンセントと本機のDC IN 12V端子にしっかり接続されているか確認してください。
- ドライブベルトがモーターのプーリーに完全に掛かっているか確認してください。(11ページ)

再生音が小さすぎる、またはひずんでいる

本機を接続したステレオシステム(アンプ)の入力端子と本機のOUTPUT SELECTスイッチが、お使いのステレオシステム(アンプ)に合わせた設定になっているか確認してください。(12ページ)

BLUETOOTH接続

ペアリングできない

- ペアリングしたいBLUETOOTH対応再生機器以外でBLUETOOTH機能が有効になっている機器が周囲にある場合は、それらの機器のBLUETOOTH機能を無効にしてから、再度ペアリングを行ってください。
- 本機のペアリング操作により、ペアリングしたくない機器の電源がオンになり、自動的にペアリングしてしまう場合があります。その場合は、BLUETOOTH接続により電源がオンにならないように機器の設定を変更し、機器の電源をオフにしてから、再度目的の機器とペアリングしてください。
- BLUETOOTH対応再生機器をペアリングモードにする方法は機器によって異なります。詳しくは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機を接続したいBLUETOOTH対応再生機器に接続できない

接続したいBLUETOOTH対応再生機器以外でBLUETOOTH機能が有効になっている機器が周囲にある場合は、それらの機器のBLUETOOTH機能を無効にしてください。

スマートフォンやテレビ、パソコンと接続できない

本機はBLUETOOTH機能を使って、BLUETOOTH対応再生機器にデータを送ることはできますが、スマートフォンやテレビ、パソコンからのデータを受信することができないため、接続することはできません。

BLUETOOTH接続できる距離が短い

以下の方法により、接続距離が延びる場合があります。

- 本機とBLUETOOTH対応再生機器に他の電子機器が接続されている場合は、電子機器を外す。
- 電子レンジが接続されている電源コンセントとは別のコンセントに、本機を接続する。
- 本機を金属製ではない台の上に設置する。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店またはソニーの修理相談窓口(裏表紙)にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は経済産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

型名: PS-LX310BT

シリアルナンバー: 本体の底面に記載

故障の状態: できるだけ詳しく

購入年月日:

お買い上げ店:

使用上の誤りにより、針先とドライブベルトを損傷、消耗、摩耗した場合、交換は有償になります。

主な仕様

モーター/ターンテーブル

駆動系	ベルトドライブ
モーター	DCモーター
ターンテーブル	直径296 mm、 ダイキャストアルミ合金
回転速度	2速 (33-1/3 r/min、 45 r/min)
ワウ&フラッター	0.1 % (WRMS)
S/N比	50 dB以上 (DIN-B)、 付属カートリッジ使用時

トーンアーム

型式	ダイナミックバランスJ字型 アーム
実効アーム長	197 mm

USB部

出力端子	USB2.0 プラグインパワー対応 タイプB端子 PCから供給 (DC 5 V 100 mA)
------	--

カートリッジ

タイプ	MM
針圧	3 g
出力レベル	2.5 mV

電源、その他

電源	DC 12 V 0.8 A (ACアダプター)
消費電力	1.8 W
最大外形寸法	430 mm×108 mm×367 mm (幅/高さ/奥行き)
重量	約3.5 kg

ACアダプター

入力	AC 100 V, 50/60 Hz 0.35 A 23 VA
出力	DC 12 V 0.8 A (ACアダプター)

BLUETOOTH部

通信方式	BLUETOOTH標準規格4.2
出力	BLUETOOTH標準規格 Power Class 2
最大通信距離	見通し距離約10 m ¹
使用周波数帯域	2.4 GHz帯
変調方式	FHSS
対応 BLUETOOTH プロファイル ²	A2DP 1.3
対応コーデック ³	SBC ⁴ 、 Qualcomm® aptX™ audio
送信範囲 (A2DP)	20 Hz ~ 20,000 Hz (サンプ リング周波数48 kHz)

¹ 通信距離は目安です。使用環境により変わります。

² BLUETOOTH標準プロファイルは機器間の
BLUETOOTH通信のためのものです。

³ コーデック: 音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。

⁴ Subband Codecの略です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

45回転アダプター.....	9, 15
USBケーブル.....	9, 18
USB端子.....	8, 18, 23
オーディオケーブル.....	12
カートリッジボディー.....	8, 20
回転速度.....	15
雑音.....	23
スピンドル.....	7, 10
ターンテーブル.....	7, 9, 10, 23
ターンテーブル用マット.....	7, 9, 11
ダストカバー用ヒンジ.....	7, 9, 11
トーンアーム.....	7, 15, 16, 23
プーリー.....	10, 21
ヘッドシエル.....	8

型名: PS-LX310BT

モデル名、シリアルナンバー(製造番号)は、本体の底面に記載されています。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 4 7 4 8 7 5 5 0 2 * (1)